

“障がい”ではなく“特性”に。

当事者視点で理解を深める体験型プログラム。

発達障がい 体験研修 VRパッケージ



私たちが思っている

“ふつう”とはなんですか？

私たちの周りには、幼い頃に発達の偏りや遅れが顕在化し、その特性がもとで、苦手なことを抱え続けている人たちがいます。“ふつうでない”という偏見にさらされ、生きづらさを感じています。

求められる発達障がいへの支援。

どこまで理解できていますか？

通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする可能性がある児童生徒の割合は学級に8.8%（11人に1人）程度※と推計されています。一方で、教育現場での発達障がいへの理解浸透のための取り組みは十分とは言えません。適切な支援のために、発達障がいへの深い理解が求められています。

※ 文科省 令和4年 通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査

特別な支援が
必要な小中学生は
通常学級に



11人に1人と推計

特別な支援が
「必要である」と
判断する学校



発達障がいを生まれながらの個性（特性）と捉え、
当事者視点で体験し共感を得る

外見では判断や理解が難しい「発達障がい」をVRによる当事者視点の疑似体験を通じて、直感的な理解と共感を促すプログラムを制作しました。“学ぶのではなく体験”を重視したプログラムで“障がい”や“当事者の生きづらさ”を生み出しているのは、私たち自身であるという気づきと行動変容のきっかけをつくります。

“ICT教育のプロ”と“発達障がいの専門家”が手を組んで制作。専門性とわかりやすさを実現した体験型プログラム。



一般社団法人
日本発達障害ネットワーク

障がいではなく特性と捉え、VR映像を活かした当事者視点での正しい理解を促す。



解説、体験、ディスカッションを組み合わせた

ブレンド型スタイルのプログラム

外見からは理解が難しい発達障がいの特徴を**当事者視点で疑似体験**し、より深く理解する体験VRと
専門家による解説・ディスカッションによる**ブレンド型学習スタイル**で構成しています。

1 専門家による講義/解説

一般社団法人 日本発達障害ネットワークの専門家から発達障がいの
特徴や症状、適切な接し方などについて解説。

2 VR体験

以下の4つの代表的な特性を日常生活シーンで再現。
VR映像で当事者視点を体験し、理解を深める。

- ADHD(注意欠如・多動性障害)
- 学習障害(LD)
- 自閉症スペクトラム障害(ASD)
- 発達性協調運動症

3 ディスカッション

当事者の体験を通じて、自分たちが感じたこと・できること等の意見
を交換。また、当事者への接し方、合理的配慮、支援について考える。

当事者目線によるVRイメージ画像



ADHD
(忘れ物)

ADHD
(多弁)

発達性
協調運動症

教育現場での理解促進、企業や公共団体等での研修など

幅広く活用いただけます。

本プログラムは、発達障がいへの理解促進が望ましい、以下のシーンで活用できます。

教師の体験型研修プログラム



発達障がい者の増加に伴い、教師の理解促進は教育現場の重要テーマに。当事者視点を体験できる、体験型研修として活用できます。

学生への理解促進



発達障がいへの理解促進を通じて、自己内省を促し、自らの心のフィルターに気づくこと、互いを尊重する姿勢の大切さ、相互に理解しあえるコミュニケーションの醸成等を目指します。

企業や公共団体での研修



企業研修に活用することで、多様性を尊重した事業展開、一人ひとりの特性を尊重するSDGsへの理解促進に繋がります。

プログラム

		Aプラン	Bプラン	備考
専門家の講義 (1回)	ライブ講義	○	—	オンライン対応可能
	動画講義	—	○	
体験 (VR視聴・ディスカッション)		○	○	
価格		148,000円	118,000円	

利用機材

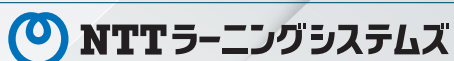
機材		台数
機器 (HMD)	PicoG2 4k	最大30台
タブレット	Surface Pro 7	1台
無線ルーター	—	1台
急速充電器	AC電源	台数に応じて

※但し、講師交通費、物品発送費は別途必要。詳細はお問い合わせください。 ※その他、様々な条件により実施方法は変更となります。

ご提供価格

本件の詳細については、以下にお問合せください。

お問合せ先



E-mail : lsxr@nttls.co.jp

お問合せフォーム ▶

